

世界一の技術

学長就任が決まってから私は豊橋技術科学大学(技科大)のこれまでの活動について勉強を始めた。その中で最も感心したのは、技科大が半導体センサーチップの開発では世界のトップレベルにあるということであった。既に、文部科学省



豊橋技術科学大学学長 榎 佳之 30

LSI工場にて(写真は石田誠教授)



“半導体王国”の礎築く

が優れた研究を進めているに採択され、その実力は専門領域ではよく知られていOEプログラム」や「グロ たよだが、就任後に上記「バルCOEプログラム」プログラムの代表者の石田

このような一貫したLSI工場は国内外の大学でもほとんどなく、ここで厳しい実地訓練を受けた多くの学生達は、半導体王国日本を背負う人材として巣立っていった。有力な半導体企業の一つエルピーダ・メモリーの社長、木下嘉隆氏はその一人である。この施設

誠教授(現副学長)からその歴史を聞いて、その素晴らしさを再認識した。石田教授はこの施設の開設以来、今日まで「育ててきた」育ての親である。開学当時から生産、評価まで一貫して行つてきた「半導体工場(LSI工場)」を

(私の父)は、こ設立したそだ。

実験が行われたが、その時

言われた。

たそだ。開学当時の教授陣には企業出身の方が大勢(3分の1ほど)おられ、東芝や日立など当時半導体開発でトップにいた企業出身の先生方が、企業で使わなくなった装置を安く譲り受け、学内に半導体の設計から生産、評価まで一貫したところにある。因みに、毛利衛さんがエピソードで宇宙へ飛び立つ時、鯉を使った宙酔いの実験が行われたが、その時